

# 白神トピックス

## 販売額が過去最高の4,000万円を突破

りんどう部会

りんどう部会（菊地昇一部会長）は1月11日、りんどう部会実績検討会を開き、生産者やJA、市場関係者など約30人が参加し栽培状況や販売実績などを確認しました。

今年度の販売実績は数量44.77t（前年比112.5%）、販売額4,174万円（同111.0%）となり、目標には届かなかったものの、数量、販売額ともに前年を上回る実績となりました。市場関係者からは「品質の個人差があるので、収穫後の管理の徹底をしてもらいたい。品質の統一化により白神りんどうの販売額がさらに伸びるはず」と期待を寄せていました。



今年度の栽培を振り返った実績検討会



熱心に話を聞く会員

## 安全・安心な加工品出荷を

みょうが館

みょうが館では1月23日、みょうが館会員を対象に、食品表示の知識や漬物等加工食品の許認可制度などについて研修会を開きました。

研修会には会員約25人が参加し、秋田県生活環境部生活センターと能代保健所の職員が講師となり説明を受けました。食品表示の知識では、現在の会員が商品に貼っている食品表示ラベルの修正案などが出され、表示しなければならない項目などを確認しました。また、漬物等加工食品の許認可制度では、HACCP（ハサップ）という食品の製造工程における品質管理システムについて学び、安全・安心な食品を提供するため、衛生管理の重要性を再確認しました。

## 次年度の栽培に向け講習会を開催

営農企画課

JAあきた白神青果物連絡協議会と能代市農業技術センターが主催する、冬期野菜栽培講習会が2月5日と6日の2日間、能代山本広域交流センターで開かれ、参加者らは野菜栽培知識や栽培管理について学びました。

このうち、白神ねぎの「白神管内で栽培されている品種の特性」では、種苗会社の担当者が今年度の作況や多く発生した病害虫などについて触れ「収穫適期を逃すと腐敗病などの病害が起りやすくなる。播種計画をしっかりと立てることで安定した出荷につながる」と述べました。質疑応答では効果的な防除方法などについて多く出され、次年度に向けた栽培のポイントを確認していました。



多くの生産者が訪れた講習会



講師の話に耳を傾けるLA

## 優良事例から新たな取組みについて学ぶ

共済課

LA（ライフアドバイザー）のスキルアップを図るために1月28日、全共連秋田県本部の松岡県北地区担当部長、JAかつの共済課の川村課長、JAあきた北共済部の田中副部長を講師に、LAスキルアップ研修会を開きました。

研修会にはLA11人が参加し、講師が進行役となり「建更転換」、「新契約」、「ひと保障」の3つのテーマに分かれてグループワークを行いました。見込者選定や提案、フォロー活動など普段行っている内容について話し合い、自身の取り組みと他JAのLAの取り組みの違いについて学びました。今後の活動に向け参加者らは講師の話に熱心に耳を傾けていました。